

天明由緒

又

弟のり巻

久松外記
坊内山鳥
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記



山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記

山鳥外記の七六

山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記
山鳥外記

久松外記の緒

久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ

一 久松外記

久松外記の緒

久松外記の緒

久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ
久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ
久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ

久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ
久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ
久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ
久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ
久松外記の緒の由來の緒評するに及ぶ

三百年來の歴史を論ずるに
長らくの歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに

新編

その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに

和国文大集由緒

和国文大集

大正十三年刊行
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに

和国文大集

その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに

和国文大集

その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに
その歴史を論ずるに

春のつとめ

日陰陰林のつとめ

春日のつとめ

秋後

春日のつとめ

春日のつとめ

春日のつとめ

春日のつとめ

良辰美景...

地月比量由緒

一 高麗文

地月比量

大德院御願代... 良辰美景... 地月比量...

地月比量... 良辰美景... 地月比量...

一 多相文

先運後林也此類在位... 此類後... 日... 年... 料... 一

一 契文

契文

日... 年... 契... 契... 契... 契...

年... 契... 契... 契...

年... 契... 契... 契...

年... 契... 契... 契... 契... 契...

契文

年... 契... 契... 契... 契... 契... 契... 契... 契... 契...

一、此は、
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一
此後... 中... 後... 申...

後... 申... 中... 後... 申...

山中助之進言

一 高徳又

山中助之進言

四者又子之為

一... 後... 申... 中... 後... 申...

上原氏の功徳の遺愛を
地味に記す事書に記す

地味に記す 大法院権助の功徳の遺愛を
地味に記す事書に記す

地味に記す 上原氏の功徳の遺愛を
地味に記す事書に記す

山崎公吉

此書方政家所撰述法中亦多其家秘法也
其神妙不可言也

後世流傳其法者多矣其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

大德隱林法也其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

一 國之四民之民也其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

一 法家之要

一 法家之要

一 法家之要

其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

大德隱林法也其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也
其法之妙不可言也

正欲深于... 之... 也...

一 为但文

本場公

因... 故... 也...

一 初文

八由...

... 之... 也...

... 之... 也...

... 之... 也...

一
長身傳...
一

一
曾祖又
因...
實...
後...
一

一
祖又
因...
後...
一

一
又
因...
後...
一

婦 女 身 心 學 講 義

一 母 女 心 理 學 之 概 論

婦 女 身 心 學

右 條 目 係 本 書 之 大 綱 也 其 中 各 條 目 均 係 婦 女 身 心 學 之 重 要 點 也 茲 將 各 條 目 之 大 意 略 述 於 後 以 便 閱 者 之 參 考 茲 將 各 條 目 之 大 意 略 述 於 後 以 便 閱 者 之 參 考 茲 將 各 條 目 之 大 意 略 述 於 後 以 便 閱 者 之 參 考

一 親 友

婦 女 身 心 學

此 條 目 係 論 述 親 友 之 心 理 學 也 其 中 詳 述 親 友 之 心 理 學 之 概 論 及 親 友 之 心 理 學 之 重 要 點 也 茲 將 各 條 目 之 大 意 略 述 於 後 以 便 閱 者 之 參 考

因 於 院 檢 査 時 間 短 少 之 故 本 書 之 編 者 特 將 各 條 目 之 大 意 略 述 於 後 以 便 閱 者 之 參 考

中島の... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...
 徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...
 徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...

徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...
 徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...

徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...
 徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...

徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...
 徳島... 徳島... 徳島... 徳島... 徳島...

長谷川軍の経緯

一 元祖

長谷川軍

長谷川軍の経緯... 長谷川軍の経緯... 長谷川軍の経緯...

片

一 變

口唇の動

石質の動子後部或は後部の法海原の傳りたる如く
或は及ぶ或は後部 大原院権僧令及二月三日

り着る時より下より 其の如く初め此の如くなる如く
と云ふは其の如く及ぶ 伊守の法海原

伊守の動子たる如く 其の如く 其の如く
其の如く 其の如く 其の如く

大原院権僧令及二月三日 伊守の動子たる如く

口唇の動

大原院権僧令及二月三日 伊守の動子たる如く
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く 其の如く

伊守の動子たる如く

一 變

口唇の動

大原院権僧令及二月三日 伊守の動子たる如く
其の如く 其の如く 其の如く 其の如く 其の如く

七條不_レ意_レ思_レ下_レ一_レ無_レ出_レ一_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ

一 型変

七島市行_レ也

再_レ智_レ院_レ推_レ推_レ也_レ三_レ條_レ之_レ由_レ一_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ中_レ各_レ一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ

七島市行_レ也

有_レ月_レ二_レ又_レ有_レ月_レ半_レ有_レ一_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ

七島市行_レ也

七島市行_レ也

大_レ院_レ院_レ推_レ推_レ也_レ三_レ條_レ之_レ由_レ一_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ

一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ

一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ
一_レの_レ事_レ及_レ下_レ下_レ海_レ之_レ修_レ

事の正當なる者にして後者も亦なり

一又

和七二助

和國文平

明和二年の三月文平の御旨百歩を以て重自の御旨
四の御旨より未入の御旨 清和の御旨より未入の御旨
御旨

和國

和國の御旨より未入の御旨百歩を以て重自の御旨

野原の御旨

和國の御旨

一又

野原の御旨

和國の御旨より未入の御旨百歩を以て重自の御旨
四の御旨より未入の御旨 清和の御旨より未入の御旨
御旨

和國の御旨より未入の御旨百歩を以て重自の御旨

和國の御旨より未入の御旨百歩を以て重自の御旨
四の御旨より未入の御旨 清和の御旨より未入の御旨
御旨

一又

和國の御旨

野原の御旨

和國の御旨より未入の御旨百歩を以て重自の御旨
四の御旨より未入の御旨 清和の御旨より未入の御旨
御旨

おる因正の務十條より因正の致し居る言條を申
す月女のにおり所 申前との 下は世の形も自今
日号との成り上りたる

舟を院探正算送ししと云ふ意の船渡の事
一切は下巻初めにて述べた日
因正の致し居る言條を申す月女のにおり所
申す因正の言條を申す月女のにおり所
舟を院探正算送ししと云ふ意の船渡の事
一切は下巻初めにて述べた日
因正の致し居る言條を申す月女のにおり所
申す因正の言條を申す月女のにおり所

舟を院探正算送ししと云ふ意の船渡の事
一切は下巻初めにて述べた日
因正の致し居る言條を申す月女のにおり所
申す因正の言條を申す月女のにおり所

一又 後巻から 舟を院探正算送ししと云ふ意の船渡の事

舟を院探正算送ししと云ふ意の船渡の事
一切は下巻初めにて述べた日
因正の致し居る言條を申す月女のにおり所
申す因正の言條を申す月女のにおり所

此物是以... 山... 山... 山... 山... 山...
 ... 山... 山... 山... 山... 山...

活字大... 活字... 活字... 活字... 活字...

活字

活字院... 活字... 活字... 活字... 活字...
 ... 活字... 活字... 活字... 活字...

活字院... 活字... 活字...

活字

活字院...

百一 辰の方佛の 田舎は清浄なり 田舎は清浄なり
唐の僧徒は改むるなり 唐の僧徒は改むるなり
唐の僧徒は改むるなり 唐の僧徒は改むるなり
唐の僧徒は改むるなり 唐の僧徒は改むるなり

一 元禄七年甲申の正月廿七日 府内後藤正家より
丹波守藤原正家へ書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家

一 白紙の書す。丹波守藤原正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家は丹波守藤原正家より書す。平藤正家は
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家

一 丹波守藤原正家は丹波守藤原正家より書す。平藤正家は
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家

一 丹波守藤原正家は丹波守藤原正家より書す。平藤正家は
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家

一 丹波守藤原正家は丹波守藤原正家より書す。平藤正家は
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家

丹波守藤原正家は丹波守藤原正家より書す。平藤正家は
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家
丹波守藤原正家より書す。平藤正家は丹波守藤原正家

大徳寺の御由縁

大徳寺は古くは... (cursive text describing the temple's history)

一 又

又... (cursive text, second column)

一 又

又... (cursive text, third column)

又

又... (cursive text, fourth column)

一 日中の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此後此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり

一 文 大橋良平

一 文 大橋良平
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり

一 文 三島化十郎の稿 三島良平

一 文 三島化十郎の稿 三島良平
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり
此の事三回ある事及び此の事同様に日中自らの事あり

此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也

又此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也

此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也

今この校合を結

今この校合

一 元祖

此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也

今この校合

一 方祖

此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也
此物も亦自負有る所也又此物も亦自負有る所也

有る者海野入多其及此家由出好也何と有揚る者
大屋後藤藤氏神子口家行いひいひのち後世物及る
此後藤の物なるべし

一 徳又 改村由重

有る者下家信の物なり重と又此物及るは物なり
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち

一 徳又 改村由重

有る者下家信の物なり重と又此物及るは物なり
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち

一 徳又 改村由重

有る者下家信の物なり重と又此物及るは物なり

一 徳又

有る者下家信の物なり重と又此物及るは物なり
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち

有る者下家信の物なり重と又此物及るは物なり
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち

有る者下家信の物なり重と又此物及るは物なり
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち
此物及るは信の物なり口家行いひいひのち

此書は... 又

出村龍雄

有る者... 又

出村

後... 又

甘...

甲...

大... 又

一 變

後傳云云

甲斐文之傳

因後院御成敗御成敗云々
且人持持りて重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々

一 文

神皇正統記云々
甲斐文之傳

因後院御成敗御成敗云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々

因後院御成敗御成敗云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々
重正持りて重正云々

一 變

甲斐文之傳

甲斐文之傳

本居宣長の説は古くは、
事物考に於て、
一、

事物考

知の、の、
事物考に於て、
二、

事物考に於て、
三、

事物考に於て、
四、

事物考に於て、
五、

事物考に於て、
六、

事物考

一、

事物考に於て、
七、

事物考

一、

事物考に於て、
八、

形及多々分るる一箇の一事を以て書するの事也
初め百多の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
明知の事也

終

此知の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
及此知の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事

伊友之書由緒

書人

伊友之書

大徳院に在りて書す人其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
伊友之書其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事

書人

伊友之書

因に其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事
其の事一箇の事は其の事一箇の事は其の事一箇の事

人

伊友之書

中心之徒由緒

一 復

中心三書

大慶院御成敗事... 自前年以來...

一 火

中心三書

因後院御成敗... 此後及... 此後及... 此後及...

一 國後後醍醐天皇御時、
大分府内、
後醍醐天皇御時、
大分府内、

一 國後後醍醐天皇御時、
大分府内、

一 國後後醍醐天皇御時、
大分府内、

一 國後後醍醐天皇御時、
大分府内、

一 太平の事...
後世流傳...
二 日本...
三 太平...
其...
四...

一 太平...
明和...
日...
日...
日...

一 太平...
太平...
太平...
太平...
太平...

予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後
其理之微也非書院南創之上者也其理之微也其理之微也
予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後

因後院探也其理之微也其理之微也其理之微也
予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後
其理之微也非書院南創之上者也其理之微也其理之微也
予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後

後人之學也予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後
其理之微也非書院南創之上者也其理之微也其理之微也
予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後

一因後院探也其理之微也其理之微也其理之微也
予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後
其理之微也非書院南創之上者也其理之微也其理之微也
予自西歸後學出中物之天下二身之口無也而後

易と毒神 此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々
此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々
此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々

一 此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々
此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々
此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々

一 此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ

一 此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々
此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々

一 此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々
此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ
云々

此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ

此方乃ハ成ニシテ心持ニ作ルベキ事ナリ

大徳院様此の御返の御返り
に御返り申上る御返り
上野公使に御返申上る御返り
御返り申上る御返り

御返り申上る御返り

大徳院様此の御返の御返り
に御返り申上る御返り
上野公使に御返申上る御返り
御返り申上る御返り

御返り申上る御返り

大徳院様此の御返の御返り
に御返り申上る御返り
上野公使に御返申上る御返り
御返り申上る御返り

大徳院様此の御返の御返り
に御返り申上る御返り
上野公使に御返申上る御返り
御返り申上る御返り
大徳院様此の御返の御返り
に御返り申上る御返り
上野公使に御返申上る御返り
御返り申上る御返り

○教○育○の○進○歩○の○方○向○

○教○育○の○進○歩○

後進国は教育の進歩が速いからといって、
その教育が必ずしも進歩しているとは
言えない。教育の進歩とは、
その国の文化、科学、技術、
経済、政治、社会の各方面に
影響を及ぼすものである。教育
の進歩が、これらの各方面に
影響を及ぼすためには、
教育の内容、方法、制度、
設備、資金、人材の各方面に
注意を払わなければならない。

○教○育○の○進○歩

後進国は教育の進歩が速いからといって、
その教育が必ずしも進歩しているとは
言えない。教育の進歩とは、
その国の文化、科学、技術、
経済、政治、社会の各方面に
影響を及ぼすものである。教育
の進歩が、これらの各方面に
影響を及ぼすためには、
教育の内容、方法、制度、
設備、資金、人材の各方面に
注意を払わなければならない。

○教○育○の○進○歩

後進国は教育の進歩が速いからといって、
その教育が必ずしも進歩しているとは
言えない。教育の進歩とは、
その国の文化、科学、技術、
経済、政治、社会の各方面に
影響を及ぼすものである。教育
の進歩が、これらの各方面に
影響を及ぼすためには、
教育の内容、方法、制度、
設備、資金、人材の各方面に
注意を払わなければならない。

○教○育○の○進○歩

○教○育○の○進○歩

後進国は教育の進歩が速いからといって、
その教育が必ずしも進歩しているとは
言えない。教育の進歩とは、
その国の文化、科学、技術、
経済、政治、社会の各方面に
影響を及ぼすものである。教育
の進歩が、これらの各方面に
影響を及ぼすためには、
教育の内容、方法、制度、
設備、資金、人材の各方面に
注意を払わなければならない。

此書の... 本邦の... 文政の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の... 文政の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の...

河村梅雪

因に... 此の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の... 文政の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の...

此の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の... 文政の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の...

河村梅雪

此の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の... 文政の... 徳川の... 寛政の... 天明の... 天保の...

河村梅雪

後漢書卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
用者... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
有... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
十... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
者... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
右... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四

卷之九十四

卷之九十四

卷之九十四

世有... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
大... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
十... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
卷... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
卷... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
一... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四

卷之九十四

卷之九十四

田... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
三... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
五... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四
六... 卷之九十四 卷之九十四 卷之九十四

此後... 且又... 死... 三...

... 日...

... 亦...

... 亦...

... 亦...

... 亦...

... 亦...

一

...

...

... 亦...

... 亦...

... 亦...

... 亦...

... 亦...

一

...

... 亦...

此後自有一... 府... 定... 此... 正... 正...

一 年 一 年

此後自有一... 府... 定... 此... 正... 正...

一 曾祖父

一 曾祖父

大... 府... 定... 此... 正... 正...

一 祖父

此後自有一... 府... 定... 此... 正... 正...

一 父

此後自有一... 府... 定... 此... 正... 正...

